

---

## 旧川上小学校北分校

環状2号線と県道弥生台・桜木町線が交差する辺りに「植松寺跡」というバス停がある。「植松寺」という寺は以前光安寺のところで触れたが昔は同寺の末寺であった。そして江戸時代中期ないし末期ごろ廃寺になったと述べた。

実はこの寺の跡地にあったのが旧川上小学校北分校である。

この分校ができたのが明治36年のこと、以来、昭和43年現川上北小学校ができるまで約70年にわたり、分校としての役割を果たしてきたのである。

なお参考ながら川上小学校には舞岡にも南部分校があり、こちらも昭和41年柏尾小学校の開校に伴い廃止されている。

この北分校はミスターKの祖父・父・私と三代にわたってお世話になった学び舎である。

ミスターKがこの分校に通ったのは昭和25年から26年の1年間で2年生からは柏尾の本校になった。

当時この分校に通った児童は品濃町全域と平戸町の一部児童であった。

前にも触れたが気の毒なのは川上町の児童で地理的には殆んど差のない地域でありながら1年生から本校通いであった。

品濃町の児童は坂上地区を除くとほぼ平坦な道を通ったが平戸町の児童は坂下口辺りから山道を登り現在の平戸小学校辺りから山道を下ってきた。

好天の日ならいざ知らず、雨風の日などさぞ難儀をしたに違いない。

当時、国道以外の生活道は、いわゆる砂利道で雨の日には泥んこで晴れた日にはモウモウと埃が立ち、いずれにせよ舗装道路とは、かけはなれた劣悪な道であった。

道の話のついでに臭い話で恐縮であるがあこの道の道端には、いたる所に肥溜めがあった。特に通学路の途中、今でいう「トキワ商店」「和菓子の石川」がある辺りは、別名「肥溜め銀座」ともいい道端に肥溜めが7～8漕、長屋でいえばハモニカ状に並んであり前を通る時など鼻をつまんで早足で歩いたものである。

いつごろであったか、しばらくの間、肥溜めの屋根部分に肥料として

使ったヒトデの死骸がたくさん並べられ、その異臭は強烈なものであった。さしずめ今だったら保健所から強制撤去命令が出たに違いないが当時はおおらかで匂いなどあまり問題にしなかった時代であった。

終戦後間もないころの話であるから今から比べればありとあらゆる面で雲泥の差のあることばかりである。

児童の服装はテンデンバラバラで学生服らしきキチンとした児童も何人かいたが、あとはありあわせのお下がりの子供服や寝間着みたいな着物、それも垢まみれ継ぎはぎだらけの粗末なものであった。靴もズック靴は僅かで、藁ぞうりや、子供下駄の児童が圧倒的に多かった。

そのころありがたいことに給食が始まっていた。しかし献立は至って侷しいもので小ぶりのコッペパンに脱脂粉乳のミルクが定番で時に味噌汁の日もあったが、これがまた噴飯ものであった。味噌汁の具は自給自足というか児童が家庭から銘々持ってきた具のごった煮味噌汁であった。大根・こかぶ・ネギなどならまだましであるが、さつまいも・キュウリ・ごぼうなど、おおよそ味噌汁にはどうかと思われる具も入っていたのである。

当時、給食の調理は本校でいわゆる給食のオバサン達がつくりできたものを、これまた給食のオジサンが自転車で運んできた。汁ものは、はばかりながら決して衛生的とはいえない肥樽みたいな桶で運んでいた。

校舎は木造の平屋建て、屋根はトタン葺、それに猫の額ほどの運動場、教室は一つで15坪くらいであったかと記憶している。それに、担任教師の小さな職員室と便所という至って簡素なものであった。

尾籠な話であるが便所はすこぶる汚かった。これは本校へ行ってからも同じでいわゆる和式といってもいまのような便器ではなく大は板を二枚わたしたもので下に溜があり汲み取り式。小はコンクリート製の横並び形式で用を足すと小便が溜に流れこむというものであった。

冬はともかく夏など悪臭が教室にまで入り込みたまつたものではなかった。

いまでも時折、そんな学校生活を夢にみることもあるがどういうわけか便所の思い出だけが頻繁にでてくる。きっとそういう嫌だった思い出や経験が身に沁みついているのかもしれない。

暖房は一メートル四方くらいの大型火鉢一つで休憩時には児童が火鉢の廻りに集まり冷たい手足をかざして僅かな暖をとっていた。

冷房はもちろんなく、確か扇風機もなかったように記憶している。

担任教師は、武内千鶴代先生でいまも健在だと聞いている。

当時のミスターKのプロフィールを通信票（通信簿）で覗いてみると身長109センチ体重19.5キログラム胸囲59センチ座高62.4センチとなっている。

出席日数は226日、欠席10日となっていたのでかなり真面目な児童像が浮かび上がる。

また成績は上から「たいへんすぐれている」が0ポイント「すぐれている」が9ポイント「ふつう」が13ポイント「あまりおもわしくない」及び「おもわしくない」がそれぞれ0ポイントで、まあ可もなし不可もなしというボンクラ児童だったようである。

因みに小学校卒業時の成績は「たいへんすぐれている」が7ポイント「すぐれている」が18ポイント「ふつう」が2ポイントで秀才には程遠いがそれなりに努力した結果が反映されている。

また6年生時の担任教師からの一言連絡には「よく努力しています。何かに推薦されて出る時恥ずかしがったりいやがったりしないでどんどん出てきましょう。少しひっこみじあんのようです」とありこればかりは「三つ子の魂百まで」で古希を迎えた今日まで変わっていないようである。

余談であるが通信簿における成績評価の方法は小学校時は上記のとおりであったが中学校からは5段階評価になった。いまの評価方法は不勉強で知らないが成績評価をしたりその児童の性格評価など先生も大変だったななんと改めて頭の下がる思いである。



昔の通信簿